

滋賀県立守山高等学校 SGH講演

1. 日時 : 平成28年5月24日(火) 7限
2. 講演者 : 琵琶湖環境科学研究センター センター長 内藤正明先生
3. 講演テーマ : サステナビリティについて～持続可能性をどう描くか～
4. 対象生徒 : 高校2年生
5. 講演概要 :

内藤先生から多少過激な内容になるかもしれないという前置きはあったが、人類が科学技術を通して築き上げてきた現在の世の中のあり方を見直し、将来へ持続可能な社会を築くために新しい生き方を創造していく必要があるという内容であった。

現在、私たちは石油などの化石燃料に頼って生活しているが、将来的には石油を使わない社会をつかって、生きていく必要がある。そのために、今後、どういう産業、仕事や会社が生き残り、消えていくのか、また、世界のお金がどのように動いていくのかを考えることは生徒たちの将来の職業選択に大きく影響する。

サステナビリティの定義は“将来世代のニーズをそこなわず、世代のニーズを満たす。そのためには、環境悪化と資源枯渇を環境容量におさえる”ということである。具体的な取り組みとしては、エコロジカルフットプリントや温室効果ガス削減目標などがある。エコロジカルフットプリントから見えてくるバーチャルウォーターの問題や温室効果ガスの将来にわたる削減目標は、私たちが普段の生活でいかに資源や環境に負荷をかけているかということを数字で示す。環境に良いといわれているものも、使い方や製造過程を考えるとあまり良いものではないものもある。たとえば、電気や水素で走る車は環境に良いといわれているが、その製造過程に多くのお金がかかりCO₂も排出される。新しい技術で環境に良い商品を開発したとしても、現在使っているものの処理はどうするのか、など問題はいろいろ考えられる。こうした状況で、二つの未来の姿(A案さらなる先端技術でより豊かな社会、B案自然共生型社会)を提示されると、どちらが良いのか。生徒の反応は、B案を望むという方が半数以上あった。どちらが正しいという答えはないが、A案を推進していく意見も多く、B案派との意見の対立もあるようだ。内藤先生の考えでは、滋賀県もB案を勧めており、先生自身もB案を理想とされていた。

今回の講義は、生徒が進路選択するときだけでなく、社会人となったときにも、どういう社会を描いていけばよいか考えるきっかけになった。

